

令和6年度

3 ポリシー（入学者受入れの方針、教育課程編成・実施の方針、
卒業認定・学位授与の方針）に照らした取組に関する意見聴取
報告書

総合福祉学部

社会福祉学科
福祉心理学科
福祉行政学科

共生まちづくり学部

共生まちづくり学科

教育学部

教育学科

健康科学部

保健看護学科
リハビリテーション学科
医療経営管理学科

2024年10月2日

総務部企画課

学外有識者所属：社会福祉法人

対象学科：総合福祉学部 社会福祉学科

同 福祉心理学科

同 福祉行政学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、

履修系統図、Campus Guide Book、入試ガイド

書面報告：あり

ヒアリング：あり

1. 学部及び学科のポリシー全般について

【総合福祉学部】

3つの学科とも合格者に対して課題学習やレポート提出を課していることは、入学後における大学での学びをイメージできる良い機会になる。

また、総合福祉学部全体としても「創造力」を育むことを目指すことも必要ではないかと感じる。既存の制度を理解することに留まらず、現在の地域社会における課題は、既存の制度のみでは解決できない複雑化・多様化している状況であるので、課題を解決するための新たな仕組みを作り出す力を育てることは今後において重要になってくると考える。

【社会福祉学科】

地域共生社会の実現に貢献できる人材の育成においては、コミュニティをフィールドにした学びが必要であると感じる。実際にコミュニティをフィールドにした学ぶ環境があることを教育課程の中に記載してあると良いと感じる。

また、実学臨床教育に力を入れていることを踏まえると、3つの学科に共通して必要な学びであると思われ、その中でも特に社会福祉を広く学ぶ社会福祉学科においてはその記載が必要なことと感じる。

【福祉心理学科】

これからの社会において、人の心理を学び理解をすることはとても重要になると考える。福祉の領域に限らず心理学の学びは働くうえでも有効な資格になると思われるため、他の学科も含め多くの学生が学び・考える環境（カリキュラムの工夫等）をご検討いただきたい。

【福祉行政学科】

福祉行政学科の教育課程等に記載のある「防災・減災」は、この先の日本社会において欠かすことができない学びの一つになると考えられるので、福祉行政学科のみではなく、すべての学科において教育課程の記載部分で触れることが必要ではないかと感じる。災害発生時における課題の中に福祉はかならず含まれるものであり、障がい者や高齢者、児童等要配慮者の暮らしの支援は福祉の基礎であると考ええる。

2. 学科が目標とする学位授与方針（DP）の達成に向けた、教育課程の編成・実施の方針（CP）に基づいたカリキュラム（授業）の明示について

【社会福祉学科】

様々な資格取得に挑戦できる学科であると理解しているが、途中で目指す資格取得のコース変更はカリキュラム上可能なのか。

カリキュラム構成において、科目の履修年次が固定されているような表記に見受けられるが、履修年次が定められているということは、資格取得を目指す上ではある程度早い段階で進むコースを絞らないといけないのか。

【福祉心理学科】

履修モデルの中に介護福祉士や保育士は示されていないが、モデルに示されていない資格は取得ができないということになるのか。特に介護福祉士においては技術の習得による利用者の身体的支援は必要だが、それ以上に精神的支援は欠かすことができない技術になる。心理学の学びを活かす職種に介護福祉士が含まれても良いように感じる。

【福祉行政学科】

社会福祉施設等における総務部門（事務）の職員を目指すことができるカリキュラムにもなっているのか。間接支援部門である総務（事務）において、会計等の実務ができることは必要だが、福祉に対する基礎的な知識は必要であると考え。将来の施設長等経営者になるうえで、介護等現場の経験があることとあわせて、経営に関する知識等を学ぶカリキュラムがあると良い。

3つの学科に共通することとして、必要な実習時間数等の記載があると良いと感じた。取得したい資格により実習時間数等が異なると思われるので、取得できる資格枠内等実習時間数の記載があると良い。

3. 入学者受入れの方針（AP）と入学選抜方法のマッチングについて

入試の選択肢が多いと感じるが、選択肢が多いために絞り込みにくくなっている側面はないものか。選択の機会を多くすることで受験者を確保できることになると思うが、受験する側としては、どの方法を選択すればいいのかが分かりにくくなることも考えられる。

4. 学生の学修成果の可視化とディプロマ・サブリメントについて

学業の理解度・習得度合いの評価も大事であるが、臨床実習における達成度や習得度はどのくらい学生個々の最終評価に反映されているか。社会福祉施設に限らず、企業等組織に属して働くことになることを考えると、実習等現場での評価は重要であると感じる。

また、実習先の選定において、実習生の数と実習の質の共存を求めるとであれば、実習生の人数調整と施設の確保が必要であると感じる。

学外有識者所属：教育機関

対象学科：共生まちづくり学部共生まちづくり学科

教育学部教育学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、
履修系統図、Campus Guide Book、入試ガイド

書面報告：あり

ヒアリング：あり

1. 学部及び学科のポリシー全般について

【共生まちづくり学部】

・「世界的視野で考察し、行動は足下から」と言われ、地球的な諸課題の解決に向けては、足下の地域や身近な諸課題に向き合い行動することが大切な一歩であることが認識されてきた。この流れを具現化するため学部・学科を改組し「共生まちづくり学科」が設定されたことは時宜を得て大変意義深いと考えている。学生の経験知ともなるそれぞれの出身地域には、多様で複雑な課題の存在が認識されているはずで、その解決に向けてアドミSSION・ポリシーに明確にあるように学ぶ意欲を明確にして入学してくると思われる。学問として持続可能で Well-being を実現させるまちづくりの在り方を深めるカリキュラムも現段階で整っており、学生の学びの高まりと軌を一にする学習内容の深まりを期待したい。

・学科のポリシーにも関わる部分として、「福祉」の専門性を兼ね備えた地域づくりの人材のように大学としての強みをより強く打ち出す必要があると考えられる。それは私見ではあるが、社会が求める人材に福祉の視点を明確に持っている人材を求める流れがあるはずという思いと、大学全体の福祉に関する専門知は、他にはないアドバンテージであると考えからである。

【共生まちづくり学科】

・ディプロマ・ポリシーの1について、望ましい学習者の資質として「多様な他者と協働して学ぶことができる姿（力）」を育むような表現ができないか。

・ディプロマ・ポリシーの3・4・5について、一つ一つ学生が理解することは難しいとも言える。「課題解決力」としてまとめて標記することも可能ではないかと思う。

・同じく6と7について、7を6に含め「総合的実践解決力」もあり得るかと考えた。また、6の（観光・文化的視点・・・）に（観光・歴史的文化的視点・・・）というように「歴史的」も併記することで、学問的深まりを表現することができると考える。

・カリキュラム・ポリシーに学習者自身のウェルビーイングな学びを実現する大学からの支援について記述してもいいと考える。小中高校では「個別最適な学び」への言及と実現が強く打ち出されている。

・アドミッション・ポリシーの1で『「総合的な探究の時間」での・・・』というように、一つの教科科目で知識・技能を有することを求めているが、他教科への言及も必要なのは。「総合的な探究の時間」は教科横断的な学びのため、各教科科目での学びの高まりも必要なのは。

・同じく2の中に「根本的な事を探究できる力を高める」などの記述があると高校生にも伝わりやすいと考える。

【教育学部】

・宮城県や東北地区の教育職員の養成に貴大学の教育学部が大きな役割を果たしている事に教育現場から感謝したい。また、高校生で教職を目指す層に選択肢を広げたことも意義のある学部設置であったと考えている。

・教育研究上の目的や3つのポリシーに「特別支援教育の理解」や特別支援免許状の取得について明確に記述した方が良いと感じた。

【教育学科】

・教育上の目的で、自らの実践を「省察する」能力を有する人材・・・の「省察」の態度能力を重視する記述は共感できます。

・アドミッション・ポリシーの②について、・・・総合的に身に付け、「更に高度な知識・技能を身につけようとする意欲を持ち、」のような文言を付け加えてもいいのかと考える。高校の教育現場では、ICTやAIなど新たな技術や指導方法の探究などを積極的に身につける必要があるため。

・同じく③について、・・・お互いを尊重し、理解し合い「協働できる」態度が身に付いているかのような表記も教育学科の願いだと思う。またその次の行の卒業後の進路として、教諭の後に「自治体の福祉担当職員」等を目指している。としてもニーズに合っているかと思う。

・カリキュラム・ポリシーの④について、・・・指導力を発揮できるよう、「専門性を高め」の文言を入れて、主体的・対話的で深い学びによる学修を目指します。でも良いのでは。(教員採用試験に対応できるように。)

【全学共通】

・カリキュラム・ポリシーについて、1の(3)の内容がイメージしにくいと感じた。

・アドミッション・ポリシーについて、評価方法の(3)の「主体性を持ち・・・」の部分でこの評価に小論文も入るような気がするがどうか。

2. 学科が目標とする学位授与方針(DP)の達成に向けた、教育課程の編成・実施の方針(CP)に基づいたカリキュラム(授業)の明示について

【全学共通】

・カリキュラム一覧の科目区分の「建学の精神を知る科目」「自分自身を考える科目」「多様性を考える科目」等のような具体的な科目要素が入っている点が、学生に分かりやすく学ぶ意義を感じられる表記になっておりとても好感がもてる。

【教育学科】

・教職を目指すには、前段でも述べたが指導方法と教科の専門性について常なる研修研鑽を積む意識と意欲が必要。その方向に進むために大学での科目設定に、学科の基礎科目の上位に、より専門的内容を学べる設定を求めたい。

3. 入学者受入れの方針（AP）と入学選抜方法のマッチングについて

【全学共通】

・入学前教育では「入学予定者向けガイド」を確認するようにあるが、もう少し何をするのかの概要を示しても良いかと思う。

4. 志願者確保に向けた広報(PR)活動について【共生まちづくり学部のみ】

【共生まちづくり学部】

・開設1年目2年目の段階では地道にPRするしかないと思う。その中で福祉の視点を重視して（それが Well-being なのだと思うが）いることを明確に打ち出した方が、他の大学と差別化が図れると思う。受験生は今後の福祉のニーズの高まりは十分に理解しているので効果的と考える。

・開設3年目以降には、高校で探究学習が深まっていく時期と一致する。大学の探究型の学習やフィールドワークで同じようなテーマを高校生が深めようとしているのであれば、高校と大学でコラボして深めていく仕組みをつくり、それをPRしていく方法も考えられる。ただ、少々時間がかかる取組かと思う。

・パンフレットに地方自治体において、福祉の専門性を持った職員がいかに大切なポジションにあるかをPRする先輩の声を載せられればと思う。

・共生まちづくり学部リーフレットは、大変分かりやすくPR効果も十分にあると思う。

5. その他ご意見

【全学共通】

・募集定員の増減が行われているが、例年出願数の多い学科の定員増が高校現場にとって助かるところ。

・9月以降順次合格者が出てくるが、入学前教育の充実を高校と協力して実施できることが望ましいと考える。大学主導でありながらも高校側も進捗管理や指導のヒントを与えられるような枠組みがあれば望ましいと考える。

学外有識者所属：医療機関

対象学科：健康科学部 保健看護学科

同 リハビリテーション学科

同 医療経営管理学科

事前資料：3 ポリシー、カリキュラム一覧、カリキュラムマップ、進路別履修モデル、
履修系統図、Campus Guide Book、入試ガイド

書面報告：あり

ヒアリング：なし

1. 学部及び学科のポリシー全般について

【健康科学部】

1. 「ノーマライゼーション」とあるが、何を指すのかよくわからない。具体的に、何をノーマライズするのかについて記述が必要である。
2. 建学の精神「行学一如」の意味を入学生が知っているとは思えない。説明が必要である。
3. 教育課程の変遷の記述で、「現場実習への融合」とあるが、何を意味しているか分からない。連携による教育効果の増進のようなことであろうと考えるが、、、。

【保健看護学科】

- ②知識・技能のレベル 努力する態度に「生涯学習の視点」をもう少し鮮明に打ち出してはどうか。たとえば、「自分の能力を見出し、、、」の前に、「生涯を通じ」を付け加えるなど。

【リハビリテーション学科】

作業療法学専攻と理学療法学専攻の内容は、ほぼ同じでそれぞれの違いや特徴が全く分からない。専攻に根ざした差別化が必要。入試ガイドにも専攻の具体的な記述がない。

【医療経営管理学科】

「ICT 資格」は簡単な説明があっても良いのではないかと。Infection control team だと思った。

2. 学科が目標とする学位授与方針 (DP) の達成に向けた、教育課程の編成・実施の方針 (CP) に基づいたカリキュラム (授業) の明示について

【保健看護学科】

専門教育については、国家資格試験出題内容を踏まえたある一定の教育内容がほぼ固定されており、大学の特色は全学共通科目の中で何を選択してもらうかにより実現されるものと考ええる。この観点から、全学共通カリキュラムはよく練られていると思う。

語学は英語を必須として、さらに新たに選択科目としてベトナム語などを検討されるのはいかがか。地域の病院では東南アジアから来日されている方が受診されることがまれではない。彼、彼女らの多くは日本語、英語はできない。それに合わせて、(必要ないかもしれないですが) スマートフォンの翻訳機能の活用についてどこかで必ず習得していただく必要があると思う。

【リハビリテーション学科】

過不足なくカリキュラムが設定されていると思う。

【医療経営管理学科】

多彩な進路志向に対応して、よく検討されたカリキュラムであると思う。

今後の日本の状況を考えると、公衆衛生学、災害概論は必修として学んでいただいて良いのではないかと思う。

3. 入学者受入れの方針（AP）と入学選抜方法のマッチングについて

【全学共通】

各入試選抜の方法で入学してきた学生の、入学後成績、進路実績などの追跡調査をしていると思う。より優秀な学生に入学していただきたいのであれば、そのデータに基づき各選抜方法における募集人員を微調整されることも一つの方法かと。

私見だが、入学試験から、そこにかかわる（高校側の教員を含めて）あらゆる人の主観を可能な限り排除することが公平性を担保することにつながると思う。調査書点数一つをとっても、高等学校間格差は間違いなく存在する。その意味では、学力試験一発のみがある意味公平と言えるが、それにも当然弊害を伴う。

貴学は実に多彩な選抜方法を採用されておられるので、もう少しシンプルにすることはできないものかと思ってしまう。受験生にとって、どの選抜方法が自分にとって有利なのか、迷ってしまうことはないだろうか。入試選抜方法は、できるだけ多彩な人材を集めたいのか、あるいは競争原理を徹底していわゆる優秀な人材を求めるかにもよるので、一概にただシンプルにすることが良いという訳でもないと思う。さらには、高等学校の成績が、優秀な人材であることを保証するという訳でもない。いずれにしても、大学での教育や社会人になってからが重要なことは論を待たない。

【健康科学部】

適度に面接などを取り入れており、よろしいと思うが、面接の「評価と重みづけ」にはいろいろ考え方があると思う。私見だが、短時間の面接で適性を厳密に評価することは不可能に思う。

4. その他ご意見

東北福祉大学には、東北を代表する有力私立大学としてますます発展する余地がある。学生教育に加えて、アカデミアの世界でも活躍するような学風を育てていただきたいと思う。